

井上 恭平

1. 事業実施の目的

調査地域における遺跡踏査および発掘調査の対象とする遺跡の選定

2. 実施場所

ボリビア多民族国ベニ県トリニダ市周辺

(セルカド郡、マルバン郡)、およびラパス県ラパス市

3. 実施期日

平成 27 年 9 月 12 日 (土) から 12 月 1 日 (火)

4. 成果報告

●事業の概要

【本調査の目的と方法】

本調査は、ボリビア多民族国ベニ県に位置するサバンナ地帯、モホス平原(Llanos de Mojos)において、考古遺跡についての文献情報を収集し、あわせて遺跡の分布および、生態環境との関連性を探ることにより、次年度以降に実施する発掘調査の対象地を選定することを目的とした(図 1)。

とくに遺跡分布に関する調査においては、以下の方法で進めた。

・先行研究の情報収集

日本では入手が困難な現地のアマゾニア先史社会研究に関する文献や発掘報告書の収集をベニ県の関係各所およびボリビアの首都であるラパス市において実施した。また、ベニ県行政所在府であるトリニダ市に在住する現地の研究者リカルド・ボテガ氏(Ricardo Botega)の協力を得て、氏の作成した遺跡見聞目録をもとに遺跡のおおよその所在を把握した。リカルド氏の目録は、サバンナや熱帯雨林に分布しているロマ(loma、スペイン語で丘の意)と呼ばれる遺丘¹に関するものである。ロマには、土器片をはじめとする考古遺物や埋葬などの過去における人間活動の痕跡が残されており、考古学的な発掘調査の対象として適していると言える。したがって、本研究では発掘対象とするロマの選定が最重要事項であると言える。具体的には、トリニダ市を含むセルカド郡とその南に位置するマルバン郡の様々な小村に報告者が滞在し、現地でロマへの立ち入り交渉を行い、下記に述べるデータの収集をおこなった。

¹ ここではロマを「遺丘」と意識しているが、実際には現在でも居住地や耕作地として利用されている場合も多い。

・ハンディ GPS による遺跡の座標および海拔標高情報の取得

遺跡の頂上部および各方位や長軸、短軸などにおいて座標および標高データを取得することで、対象地域内の遺跡分布状況を把握する。

・ハンディ GPS の軌跡保存機能を利用した遺跡の平面形状の把握

GPS を携帯した状態で遺跡周囲を踏査することで、踏査した軌跡を地図上に記録することが可能である。その精度は高いとはいえないものの、この機能を利用し簡易的に遺跡の平面形状の把握を試みた。

・遺跡および周辺環境の記録、聞き取り

遺跡とその周辺環境を、写真およびスケッチにより各遺跡にて記録した。また、遺跡周辺で生活する住民たちが取得した土器などの考古資料の記録と取得時の時期、場所等の聞き取り等を合わせて行った。

・写真による遺跡地表面に散布した土器資料の記録

遺跡踏査において地表面に散布している土器資料は、該当する地域の土器編年と比較することで遺跡の年代的位置の把握が可能になるため、その記録は重要である。

●本事業の実施によって得られた成果

【調査成果】

今回の調査では、上述の方法での踏査を 92 遺跡において実施した。本稿では報告の便宜上、調査を実施した遺跡の地理的な分布傾向をもとに 7 つの地域グループに分け、各グループにおいて特に重要と思われる遺跡を取り上げて報告を行う（表 1、図 2、図 3）。

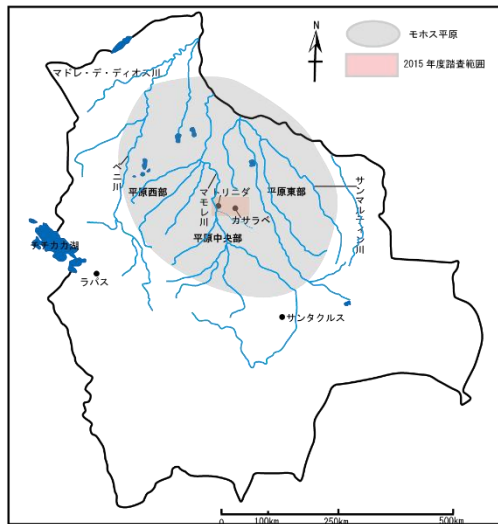


図 1 ボリビアにおけるモホス平原の位置

表 1 踏査を実施した遺跡（平成 27 年度）

地域区分	番号	遺跡名(スペイン語)	遺跡名(カタカナ表記)	経度	緯度	推定高さ	
マルバン郡北部	28	Loma chocolatal	ロマ・ショコラタル	-64.877892	-15.082611	3-5m	
	29	Loma El Copujuro	ロマ・エル・コプーロ	-64.678892	-15.045177	1-3m	
	30	Loma Aldo Monasterio	ロマ・アルド・モナステリオ	-64.665578	-15.019344	3-5m	
	31	Loma Chichici Munguía	ロマ・チチチ・ムンギア	-64.738049	-15.024666	5-8m	
	32	Loma San Antonio	ロマ・サン・アントニオ	-64.713611	-15.011061	3-5m	
	33	Loma Belleza	ロマ・ベリェーサ	-64.707817	-15.009795	—	
	34	Loma Córdoba (Oeste)	ロマ・コルダバ(西)	-64.755758	-14.984103	5-8m	
	35	Loma Santa María	ロマ・サンタ・マリア	-64.667337	-14.947075	1-3m	
	36	Loma Samopae	ロマ・サモパエ	-64.661942	-14.943371	5-8m	
	37	Loma Cotoca	ロマ・コトカ	-64.593428	-14.985147	15m+	
	38	Loma chocolatario	ロマ・ショコラタリート	-64.629673	-14.974054	10-15m	
	39	Loma Tesoro	ロマ・テソロ	-64.641718	-14.963018	1-3m	
	40	LM1120	LM1120	-64.723448	-15.02142	1-3m	
	41	Loma Salvatierra	ロマ・サルバティエラ	-64.486102	-14.883565	10-15m	
	42	Loma de la Población de Casarabe	ロマ・ラ・ポブラシオン・デ・カサラベ	-64.477459	-14.874585	1-3m	
	43	Loma alta de Casarabe	ロマ・アルタ・デ・カサラベ	-64.472467	-14.870159	8-10m	
	44	Loma Mendoza	ロマ・メンダーサ	-64.450809	-14.883974	3-5m	
	45	Loma Puerto Militar de Casarabe	ロマ・プエルト・ミリタール・デ・カサラベ	-64.429091	-14.895012	10-15m	
	46	Loma Villa Florida	ロマ・ビル・ニャ・フロリダ	-64.4301	-14.917863	1-3m	
	47	Loma Villa Caterine	ロマ・ビル・カテリン	-64.428806	-14.918868	3-5m	
	カサラベ村近郊	48	Loma 19 de Junio	ロマ・デ・シエン・エ・ヘ・デ・フニョ	-64.430226	-14.935569	10-15m
	カサラベ村近郊	49	Loma Cortada de la Curva de Villa Vanzur	ロマ・コルタダ・デ・ラ・クルバ・デ・ビル・ヴァンズール	-64.425268	-14.958706	1-3m
		50	Loma Biato	ロマ・イビアト	-64.448486	-14.832865	5-8m
		51	Loma Bibate-1	ロマ・イビバテ-1	-64.410536	-14.804226	8-10m
		52	Loma Bibate-2	ロマ・イビバテ-2	-64.409867	-14.802756	10-15m
		53	LM1028	LM1028	-64.465546	-14.826113	5-8m
		54	LM1112-a	LM1112-a	-64.492718	-14.842254	1-3m
55		LM1112-b	LM1112-b	-64.563592	-14.821257	3-5m	
56		LM1114	LM1114	-64.700831	-14.960558	3-5m	
57		Loma Buen Jesús	ロマ・ブエン・ヘスス	-64.368743	-14.987397	1-3m	
58		Loma Bella Selva	ロマ・ベリャ・セルバル	-64.310203	-14.965212	5-8m	
59		Loma Tokio	ロマ・トキオ	-64.369856	-15.007818	1-3m	
60		Loma de Dante Cosio	ロマ・デ・ダンテ・コシーオ	-64.378333	-15.007325	3-5m	
61		Loma de Simón Negrete	ロマ・デ・シモン・ネグレテ	-64.386561	-15.004973	1-3m	
62		Loma Santo Domingo-1	ロマ・サント・ドミンゴ-1	-64.414335	-15.009701	3-5m	
63		Loma Santo Domingo-2	ロマ・サント・ドミンゴ-2	-64.414572	-15.010171	3-5m	
64		Loma Santo Domingo-3	ロマ・サント・ドミンゴ-3	-64.415564	-15.009725	1-3m	
65		Loma Estrella de Belén	ロマ・エストレージャ・デ・ベレン	-64.354023	-14.998142	1-3m	
66		Loma de Juan Carlos Fernández	ロマ・デ・ファン・カルロス・フェルナンデス	-64.34702	-14.996403	5-8m	
67	Loma de Carmen	ロマ・デ・カルメン	-64.357219	-14.98995	5-8m		
カサラベ村近郊	68	Loma del Cuarto del Doctor Cergio Ortiz	ロマ・デル・クアルト・デル・ドクトール・セルヒオ・オルティス	-64.348738	-15.030903	1-3m	
	69	Loma Carina Elita	ロマ・カリナ・エリタ	-64.312046	-15.053436	10-15m	
	70	Loma Valladolid	ロマ・ヴァロリッド	-64.315722	-15.058704	1-3m	
	71	Loma Pero Aché au	ロマ・ペロ・アチェアウ	-64.338804	-15.073558	1-3m	
	72	Loma de José Luiz Peña-1	ロマ・デ・ホセ・ルイス・ペーニャ-1	-64.355995	-15.061656	3-5m	
	73	Loma de José Luiz Peña-2	ロマ・デ・ホセ・ルイス・ペーニャ-2	-64.357184	-15.062856	3-5m	
	74	Loma de José Luiz Peña-3	ロマ・デ・ホセ・ルイス・ペーニャ-3	-64.357296	-15.06331	5-8m	
	75	Loma Poaza Honda-1	ロマ・ポサ・オンダ-1	-64.278455	-15.064369	1-3m	
	76	Loma Poaza Honda-2	ロマ・ポサ・オンダ-2	-64.271811	-15.064389	1-3m	
	77	Loma Rica-1	ロマ・リカ-1	-64.311731	-15.01426	3-5m	
	78	Loma Rica-2	ロマ・リカ-2	-64.312673	-15.009933	3-5m	
	79	Loma San Juan de Mocoibi	ロマ・サン・ファン・デ・モコイビ	-64.324719	-15.121508	8-10m	
マモレ川沿岸	80	Loma Virotosa	ロマ・ビロトサ	-64.283943	-15.100953	1-3m	
	81	LM1030	LM1030	-64.381265	-15.007616	1-3m	
	82	LM1105-a	LM1105-a	-64.270431	-15.006498	3-5m	
	83	LM1105-b	LM1105-b	-64.264475	-15.004082	5-8m	
	84	LM1105-c	LM1105-c	-64.287164	-15.023765	3-5m	
	85	LM1105-d	LM1105-d	-64.313908	-15.102233	1-3m	
	86	Loma Kenia del Doctor Sikujara-1	ロマ・ケニア・デル・ドクトール・シクハラ-1	-64.351546	-14.678944	1-3m	
	87	Loma Kenia del Doctor Sikujara-2	ロマ・ケニア・デル・ドクトール・シクハラ-2	-64.353363	-14.678836	1-3m	
	88	Loma Dulcinea	ロマ・ドゥルシネア	-64.311029	-14.655969	3-5m	
	89	Loma Silvestre	ロマ・シルベストレ	-64.306907	-14.6564	1-3m	
セルナンデス湖西部	90	LM1111-1	LM1111-1	-64.287324	-14.657029	8-10m	
	91	LM1111-2	LM1111-2	-64.285047	-14.657791	1-3m	
	92	LM1111-3	LM1111-3	-64.286518	-14.655413	5-8m	
	93	LM1111-4	LM1111-4	-64.286518	-14.655413	5-8m	

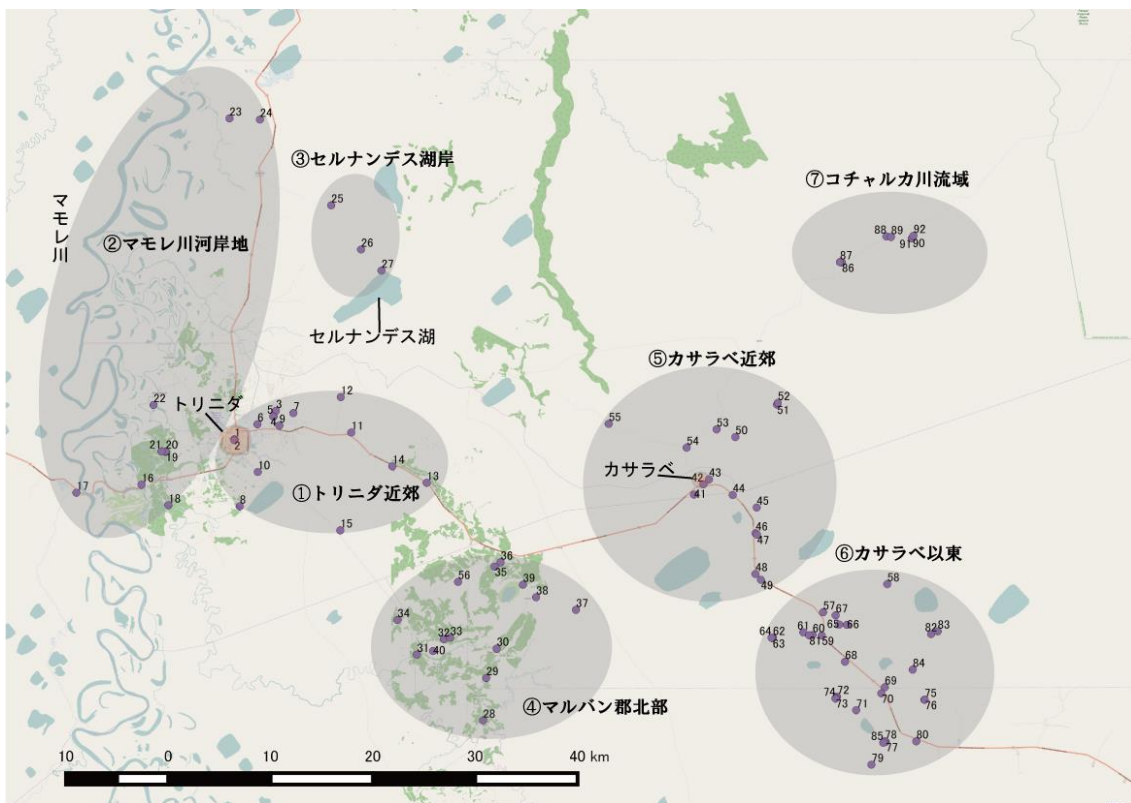


図2 平成27年度踏査範囲と遺跡分布 (Open Street Map)

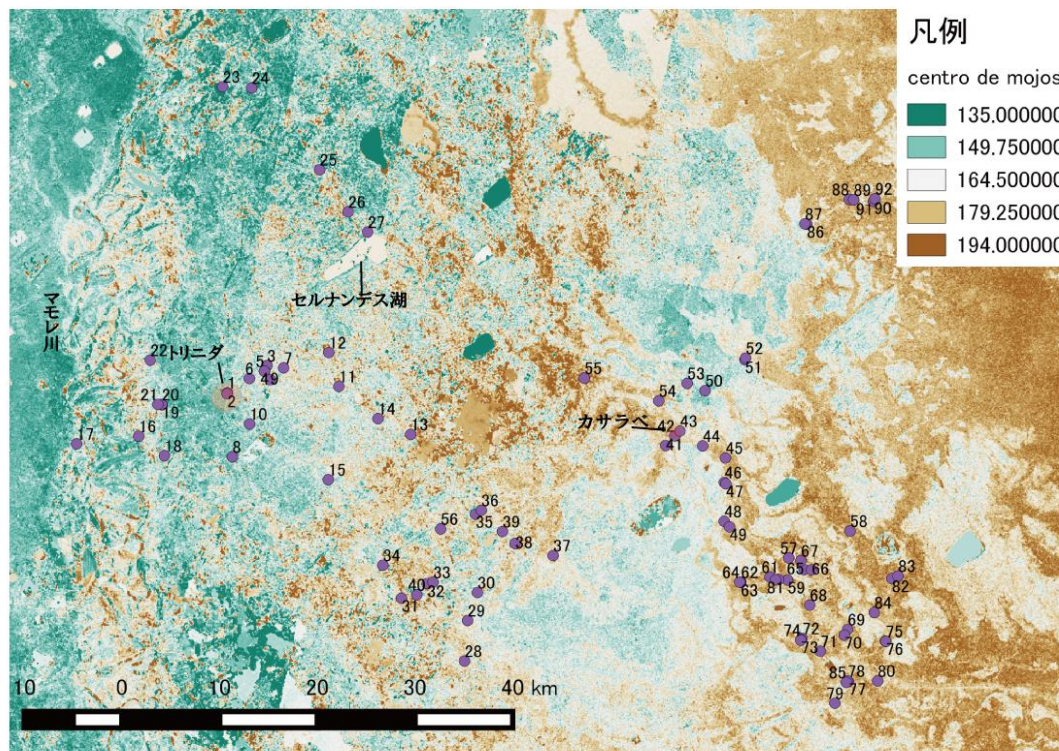


図3 衛星画像で示した踏査範囲の海拔標高図 (ASTER DEM)、凡例はメートル (m) 単位

①トリニダ市近郊

ベニ県の行政所在府であるトリニダ市は、マモレ川東岸に位置する人口約 8 万の都市である。このグループに属する遺跡は都市の内部ないし近郊に位置しているため、物資や人材の調達など、発掘調査を行う上では最も利便性の高い地域である。しかしながら、都市開発によって破壊、改変を受けている場合や、教会などの重要な後代の建築が遺跡の上に建てられていることが多く、概ね保存状態が悪いことが問題として挙げられる。そのため、先行研究においても調査された遺跡はごく僅かである。その一方で、遺跡の一部が重機等によって削平された結果、遺物の堆積や散布状況の確認は比較的容易であると言える。中でも、トリニダ市中心部から北東の居住地地区に位置する遺跡である LM1018 は、比較的規模の大きなロマであり重要であると思われる。

高さ 7~8m のマウンドである LM1018 は、居住地区に位置しているもののかなり密度の高い植生に覆われ、その西端に池が隣接している。ロマ頂部の中心を重機によって大きく削平されているため、大量の土器片が削平面に散布している。また、削平された頂部の断面で確認できる遺物包含層の厚さから、長期間にわたる遺跡での人為的活動が示唆される。削平により大きく形状が変化しているものの、おそらくは西端部の池から東へ漸次的に高くなり、頂部がマウンド南東に位置していたと推察される。

②マモレ川河岸

マモレ川は、モホス平原中央部を南から北へ流れる大きな河川であり、アマゾン川の巨大支流の一つであるマデイラ川の主要な支流の一つでもある。マモレ川およびその支流（イバレ川）を含むこの地域には川を挟んで東西にロマが位置している。また、アルゼンチン隊をはじめとする発掘調査事例も比較的多く存在する（Calandra y Selceda 2004）。

この地域に属するロマは河岸段丘上に位置しているものが多い。そのため、川の流れによる浸食が大きく、浸食部分には多くの土器片が地表面および河岸断面で確認できる。調査者が訪れたのは乾季に当たる季節であったため、川の水の水位は比較的低かったものの、雨季の川の増水期には水位が著しく上昇し、河岸に位置するこの地域はほぼ全域が冠水する。地域住民によれば、冠水時の水位は年によって大きく異なるとのことであるが、現在河岸に建てられている住居の多くが冠水を防ぐために高床式になっており、その床面の高さから推察すると、乾季の水面から最低でも 2~4m の上昇が予想される。一方で、ほぼ全ての地元住民が、ロマのマウンド上は雨季に冠水することはないと証言しており、冠水の影響を大きく受けるこの地域においてもロマのマウンド上は居住が年間を通して可能であったと考えられる。

この地域で特筆すべき遺跡は、ロマ・プエルト・バリビアンである。トリニダから 12km ほど北西に位置する港、プエルト・バリビアンから徒歩 10 分ほどにあるこのロマは、二つのマウンドから構成されている。南に位置する大きなマウンドは、コロラド湖という三日月湖に面しており、その岸边からマウンド頂部まで 7~8m 程の高さがある。この大マウンドは、北西に位置する小マウンドに、盛り土と思われるスロープ状の通路で結ばれている。地元住民の話では、雨季になると大小マウンドの周囲はほぼ冠水し、島のような状態を呈する。小マウンドでは目ぼしい土器片は確認できなかったものの、大マウンドでは著しい数の土器片や土製のすりこぎ（マノ）が確認できたほか、頂上部からやや北にずれた地点で残存状

態のよい甕が半ば地面に埋まったままの状態で見出されていた。地元住民によると、この甕に関連して人間の頭蓋骨が地面から出てきたという話もあり、甕棺による埋葬行為の存在が示唆される。甕棺を用いた埋葬は先ヨーロッパ期のモホス平原に広く存在した慣習であったと考えられているが、埋葬行為の地域性や時代性などについては未だに統一的な学説がなく、ロマの機能的な議論も含め、こうした事例は重要なものであると言える。

③セルナンデス湖西岸

セルナンデス湖はトリニダの北西 15km に位置する湖であり、ボテガ氏の目録にはその南部と西部に位置するロマについて記載されているが、今回の調査では湖南部の農園（エスタンシア）への立ち入りができず、したがって調査が実施できたのは西部のみである。

セルナンデス湖周辺は、トリニダから北へ延びるアスファルト舗装の幹線道路を挟んでマモレ川水系から 10km 以上の距離があり、マモレ川河岸地域と比較すれば雨季の川の増水による冠水の影響は大きくはないと考えられる。しかし、地元住民の話では川の氾濫ではなく、大量の降雨による水位の低い冠水は毎年発生しているとのことである。セルナンデス湖という止水域に隣接する地域であることを考え合わせると、雨季と乾季で周辺環境の変化が比較的大きな地域であると言える。

この地域における過去の発掘調査事例はこれまで報告されておらず、調査研究の空白地帯になっている。調査が実施できなかった湖の南部については不明であるが、少なくとも今回調査を実施した湖の西部では、サバンナの草原地帯からの比高を見た場合、概ね低いロマが多いと思われる。そうした中で、同名の小村に位置しているロマ・エスピリトゥ・サントは異質である。円形の平面プランを持つこのロマは、隣接する池からの比高が 10m 近くあり、比較的規模の大きなロマであると言える。現在のところ、このロマの地表面の半分程度はバナナ畑として利用されていることに加え、耕作地以外の部分でも熱帯特有の濃い植生に覆われているにもかかわらず、多くの土器片、磨皿やマノが確認可能である。工事や浸食によって生じた断面が存在せず、遺物包含層の厚さについては確認がとれなかったものの、ロマの規模と遺物の散布状況からみれば、長期間にわたる人為的活動の結果か、あるいは比較的短い期間の利用であったとすれば、かなり集約的な人為的活動の結果としてこのロマが形成されたと考えられる。

④マルバン郡北部

マルバン地域北部は、トリニダから南東 30km 程に位置する地域であり、行政区分ではセルカド郡の南部に位置するマルバン郡に属する。マモレ川の支流の一つであるモコビ川の流域に当たるこの地域では、雨季の川の氾濫はそれほど顕著ではなく、降雨による冠水もこの地域の住民にとってはあまり大きな問題とはなっていないようである。

この地域では、2000 年代半ばに日本調査団による調査が行われている。調査の規模はロマによって様々であったが、ロマ・チョコラタリト、ロマ・サムライ、ロマ・パンチョロマン（本調査では未踏査）の発掘調査や、ロマ・コトカの測量調査などが実施されている（実松 2010）。これら日本隊の調査は、モホス平原において日本人による唯一の先行プロジェクトである。一方で、ロマが比較的密集している地域にも関わらず、調査事例は限定的であると言わざるを得ないのが現状である。

ロマの規模は非常に小規模なもの(ロマ・テソロ)から、今回の調査でも最大規模に匹敵するロマ(ロマ・コトカ)まで多様であるが、概ね比高が5m以上の中規模のロマが多く分布している。また、日本調査団による地形測量の結果では、ロマに付随して立地する、盛り土でつくられた道路(テラプレン)や堤防なども分布している。本調査においても、比高20mを超える可能性が高いロマ・コトカに付随しているテラプレンを2基確認している。1基はロマから西へ、もう一基はロマから北東へ伸びており、盛り土の高さはおおよそ基部から1m程度、道幅1.5~2m程度である。ロマの地表面において大口径の皿をはじめとする土器片が確認できたが、同時にこれらテラプレンにおいても一定量の土器片が確認できた。実松らによる調査では、ロマ・コトカにはおよそ10基のテラプレンが付随しているとのことであるが(実松2010)、上述のように測量調査のみに留まっており、ロマ・コトカおよびテラプレンの発掘調査はなされていない。

⑤カサラベ村近郊

カサラベ村はトリニダから東へ50kmほどに位置する比較的規模の大きな村である。カサラベの村内、および周辺地域には規模の大きなロマが多く分布しており、先行研究における発掘調査事例も多数存在している。特に、ロマ・メンドーサとロマ・サルバティエラでは、70年代後半のアルゼンチン隊による調査の後、近年になりドイツ隊による、より綿密な調査が行われている(Jaime 2012, Prümers 2015)。これらの調査により、実証的な分析に基づいた信頼性の高い土器編年がこの二つの遺跡で設定されており、今後モホス平原中央部での相対編年と放射性炭素年代による時系列の整理に大きな進展が期待されている(Prümers 2007)。加えて、ロマ・サルバティエラではモホス平原では初となる金属製品の副葬品などを伴った埋葬が発見されており、モホス平原での社会複雑化を議論する際の中核地点になり得る地域である。

地勢の面に関しては、この地域はマモレ川河岸からかなり距離も離れており、標高も河岸地域から10~20m程度高くなっている。そのため、雨季の冠水はそれほど顕著なものではないにも関わらず、大規模なロマが多数存在していることは興味深い点である。規模の大きなロマが存在する一方で、小中規模のロマもまた点在しており、今回踏査できなかった範囲には未だ潜在的に小中規模のロマが分布している可能性が高いと考えられる。

多くのロマは植物に覆われているか、あるいは現代の住居や耕作地になっている場合が多いものの、カサラベ村から南東に位置するロマ・メンドーサはロマの形態を知る上で重要である。アルゼンチン隊およびドイツ隊による調査が行われたこのロマは、報告者が踏査を行った際には地表面がむき出しの状態になっており、ロマの形状と地表面の遺物の散布状況を知る上で非常に有用である。ロマの地表面はおびただしい量の土器片に覆われている。足の踏み場もない程の土器の散布状況は、ロマのマウンドが相当量の土器で構成されている可能性を示唆している。先行研究では、ロマの五分之一が土器で構成されていると算出している報告もあり(Man 2005)、モホス平原における土器および土製品製作が非常に活発であったことが伺われる。ロマ・メンドーサはトリニダからカサラベを経て東に伸びる幹線道路によって南北に分割されており、道路からロマの北側断面を観察することができた。その断面には、やはり多数の土器片とともに陸生巻貝の貝殻が多数堆積しており、それらが厚い包含層を形成していることが確認された。現在ではこうした陸生貝が食されることはほぼ

ないとのことであるが、当時においては重要なタンパク源であったことが予想され、動植物遺存体と合わせ、当時の生業活動を復元する上で重要な資料として期待できる。

⑥カサラベ村以東

カサラベ以東地域は、トリニダからカサラベを経由して走る幹線道路の東部に当たる。河川としては当地域の南側がモコビ川の上流域に当たる。標高はカサラベ地域よりもさらにやや高くなると考えられることから、雨季の冠水の影響もさらに少ない地域であると予想される。トリニダ、カサラベなど拠点とできる集落からかなり距離があり、先行研究ではこの地域の調査事例はほぼ報告されていない。

ロマの傾向としては、大小さまざまなロマが分布するものの、カサラベ地域と同様に非常に規模の大きなロマが複数立地している。これに加えて特徴的なのは、規模の大きな複数のロマが隣接している事例が存在することである。ロマ・サント・ドミンゴ、ロマ・ホセ・ルイス・ペーニャ、ロマ・リカなど、面積、比高ともに大きなマウンドが2～3基隣接しているケースや、ロマ・カリナ・エリータのように巨大なマウンドの上に複数のロマが築造されているケースなど、他地域にはない特色を呈している。以下では、特に注目すべきロマとしてロマ・カリナ・エリータについて詳述する。

ロマ・カリナ・エリータは10mを超える大規模なロマであるが、マウンド上の東西南北方向に小規模のマウンドが位置している。地元住民の話では、サバンナを遠く見渡すことが可能な最頂部の西側のマウンドから伸展状態の人骨が出土したことがあるとの証言もあり、ロマの規模、特徴的なマウンドの配置などを考え合わせると、一般的な居住のみの利用に留まらない複合的な機能を有したロマである可能性が推察される。

⑦コチャルカ川流域

コチャルカ川はマモレ川の小さな支流の一つである。当地域はカサラベ村から北に位置し、非常に小規模な集落が点在する地域である。また、かつて狩猟採集民であったシリオノ族の人々が生活している地域である。地勢としてはカサラベ村周辺と同様に比較的標高が高く、雨季の冠水の影響はあまり大きなものではない。ロマの規模は中規模なものが多いが、そうした中で、ロマ LM1111 は中規模のロマが南北に3つ隣接している興味深い事例である。残念ながら今回の調査では、これら3つのロマの時系列の関係を推察できるような資料は確認できなかったものの、隣接する複数のロマの通時的関係ないし共時的関係を明らかにすることができれば、それぞれのロマを利用して人々の社会関係に踏み込んだ議論が可能になる重要な事例であると考えられる。

【調査成果のまとめ、および博士論文での位置づけ】

本事業で実施した踏査により、調査対象地域であるモホス平原中央部の遺跡の現況について多くの知見、および発掘調査の計画に不可欠な地勢に関する諸情報や現地住民との関係を構築することができた。これらの成果を受け、報告者は調査対象遺跡をセルナンデス湖岸地域に位置するロマ・エスピトゥ・サントに選定するに至った。

セルナンデス湖地域以外においても、報告者の研究テーマに合致した興味深い事例は数多くあり、特に社会の複雑化という問題にアプローチするという点ではカサラベ以東地域

の大規模ロマ複合がロマ・エスピリトゥ・サントよりも適切と見るべきである。しかし今回の調査で得られた問題意識として、雨季の冠水の影響が大きな地域よりも、影響の小さな地域に立地するロマがより大規模であるという踏査結果は、雨季においても冠水しない居住区域の確保とは別の機能、意味としてロマの形態に差異があると示唆している。これが時代によって異なるものであるのか、あるいは同じモホス平原中央部でも地域ごとに大きく異なるものであるのかは現在のところ判断することがむずかしい。ロマの機能としては、年間を通した恒常的な居住地や雨季の間の季節的な居留地、耕作地、祖先を祭る埋葬地など、様々な説が提唱されている。しかし根本的な問題として、個別のロマで展開された人間の諸活動が具体的に一体どういうものであったのかを、発掘調査で得られたデータで実証的に論じた研究は未だ数が多くなく、推論による部分が大きい。極端な例を挙げれば、先ヨーロッパ期のモホス平原の人々が、雨季と乾季で季節的な移住を行う集団であったかどうか、という基本的な問題すら不明瞭であると言わざるを得ない。本調査で得られた上記の知見は、ロマという構造物と当時の人々との個別具体的な関係解明の必要性を示唆するものである。

ロマに関わる人間の諸活動を考察するためには、まずいかにしてロマが形成されたのか、その形成過程についての精査が必要となってくる。こうした点においては、10m を超える大規模ロマや、それら大規模ロマ複合の部分的な発掘ではなく、10m 以下の中～大規模程度のロマの重点的な発掘調査が適切であると考えられる。

加えて、雨季の増水による被害が甚大な冠水地帯ではなく、また増水、降雨による冠水がほぼ発生しない地域でもない、中間的な様相をなすと予想される地域でのロマの機能を明らかにすることは、両者の在り方の特徴を相対化し、比較の際の参照点を増やすという点で重要である。以上の点においてロマ・エスピリトゥ・サントは適切な遺跡であり、加えてこの地域の先行調査事例は存在せず、この地域の土器編年の確立は今後期待されるモホス平原中央部で広く適応可能な大枠の土器編年案を編むために大きく貢献できる可能性を持つ。

以上の成果をもとに、平成 28 年度はロマ・エスピリトゥ・サントの測量調査を行い、その後博士論文の中核となる本格的な発掘調査へと移行する予定である。

本調査では、対象地域を広く踏査したものの、あくまで傾向の把握に留まり、全域の分布状態を綿密に網羅したものであるとは残念ながら言い難い。したがって、今後はロマ・エスピリトゥ・サントの測量調査と合わせ、より絞り込んだ地域での網羅的なセトルメントパターンの調査成果を加味し、報告者が在籍する古代アメリカ学会等での成果報告を行っていく計画である。

参考文献

Calandra, Horacio A. y Susana A. Selceda.

2004 Amazonia boliviana: Arqueología de los Llanos de Mojos. *Acta Amazónica*, 34(2) :155-163. Manaus.

Jaimes, Carla.

2012 La Cerámica de Loma Salvatierra, La Paz, Bolivia.

Man C.

2005 1491: New Revelation of the Americans before Columbus, Knopf.

Prümers, Heiko.

2007 ¿“Charlatanocracia en Mojos”? investigaciones arqueológicas en la Loma Salvatierra, Beni, Bolivia. Boletín de Arqueología PUCP(11)103-116.

Prümers, Heiko (ed.).

2015 Loma Mendoza: Las excavaciones del Instituto Arqueológico Alemán y de la Dirección Nacional de Arqueología en los años 1999-2002, La Paz, Bolivia.

実松克義

2010 『アマゾン文明の研究—古代人はいかにして自然との共生をなし遂げたのか』、現代書館、東京.

●本事業について

本調査は、発掘の対象となる遺跡選定を目的とした踏査であった。前述したように、遺跡選定は発掘調査とそれをもとにした博士論文執筆には不可欠な段階であるが、一方で本件のような前段階的な調査に対して、他の機関からの助成を得ることは容易ではない。そうした意味で、本事業は若手研究者にとって非常に重要な意味を持つものであると思われる。研究大学として次世代の研究者を育成し、その成果を社会に還元する社会的な任を背負う本学にとって、こうした事業はその一端を担うものであるとも考えられる。したがって、今後も本事業の継続と発展を希望する。